



労働政策研究報告書 No. 164

2014

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究

—現状分析を中心として—

労働政策研究・研修機構

壮年非正規労働者の仕事と生活に関する研究

—現状分析を中心として—

まえがき

経済・産業のサービス化、IT化、グローバル化が進展するとともに、働く人々の意識が多様化するなかで、いわゆる非正規労働者が増加している。非正規労働者の多くは、雇用保障の程度や賃金水準が正社員と異なるため、このような変化は、企業経営や職場運営のあり方のみならず、社会や経済のあり方にも大きな影響を与えると考えられる。

これら非正規労働者の雇用の安定、処遇の向上を図る動きとしては、2007年の「パートタイム労働法」の改正、2012年の「労働者派遣法」の改正、2012年の労働契約法の改正（有期労働契約関連）など、近年相次いでいる雇用・就業形態ごとの立法政策があげられる。

他方で、雇用・就業形態の枠にとらわれない、対象者層別の対策も欠かせない。昨今、力が注がれているのが、バブル経済崩壊後の「就職氷河期」において、非正規労働者として働くことになった若年者に対する、その後の支援施策である。その内容は多岐に渡るが、柱となる代表的な施策として、学校から職業への移行プロセスの改革、若年非正規労働者に対する企業内外での能力開発の強化などをあげることができる。

しかし、若年非正規労働者の増加が問題視されてから、すでに20年以上が経ち、「就職氷河期」と呼ばれた時期に学校を卒業した者も、いまや40歳前後となっている。そして実際に、もはや若年とは呼べない、「壮年」と呼ぶべき年齢層の非正規労働者が増加している。これら壮年非正規労働者は、自身および両親の加齢、両親の他界などにより生活上の負担が大きくなること、同年代の正社員との賃金格差が大きくなること、正社員への登用・転職の可能性が若年期と比べて高くなることなどから、若年非正規労働者よりも、仕事と生活の両面で困難な状況に直面している場合が多いと予想される。

そこで、労働政策研究・研修機構（JILPT）では、プロジェクト研究「非正規労働者施策等戦略的労働・雇用政策のあり方に関する調査研究」のサブテーマである「正規・非正規の多様な働き方に関する調査研究」の一環として、「壮年非正規労働者の働き方と意識に関する研究」に取り組むこととした。同研究では、すでに2012年度に個人ヒアリング調査を実施し、2013年に資料シリーズ『壮年期の非正規労働—個人ヒアリング調査から—』を刊行している。本報告書は、そこで得られた仮説を踏まえて設計・実施されたアンケート調査に基づき、壮年非正規労働者の仕事と生活の現状を分析したものである。調査にご協力いただいた皆様に、この場を借りて、お礼を申し上げる。

本報告書が、政策担当者をはじめ、企業経営者、人事担当者の参考となり、非正規労働者として働く人々の就業環境の改善につながれば幸いである。

2014年5月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構
理事長 菅野 和夫

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆箇所 (いずれも第I部)
たかはし こうじ 高橋 康二	労働政策研究・研修機構 研究員	第1章 第2章 第3章 第9章
ほり はるひこ 堀 春彦	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第4章
ふくい やすたか 福井 康貴	東京大学社会科学研究所 特任研究員	第5章
り せい が 李 青雅	労働政策研究・研修機構 アシスタント・フェロー	第6章
もりやま ともひこ 森山 智彦	同志社大学社会学部 助教	第7章
いけだ しんごう 池田 心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第8章

※全体の編集は、高橋康二が担当した。

※第II部の集計表は、労働政策研究・研修機構の臨時研究協力員、小林徹が作成した。

「壮年非正規労働者の働き方と意識に関する研究」研究会メンバー

(2014年3月末時点)

あさお ゆたか 浅尾 裕	労働政策研究・研修機構 労働政策研究所長
うめざわ しんいち 梅澤 眞一	労働政策研究・研修機構 統括研究員
ほり はるひこ 堀 春彦	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
おの あきこ 小野 晶子	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
いけだ しんごう 池田 心豪	労働政策研究・研修機構 副主任研究員
たかはし こうじ 高橋 康二	労働政策研究・研修機構 研究員
おくだ えいじ 奥田 栄二	労働政策研究・研修機構 主任調査員補佐
り せい が 李 青雅	労働政策研究・研修機構 アシスタント・フェロー
こばやし とおる 小林 徹	労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員
もりやま ともひこ 森山 智彦	同志社大学社会学部 助教
ふくだ なおと 福田 直人	生活経済政策研究所 研究員
	(元・労働政策研究・研修機構 臨時研究協力員)
ふくい やすたか 福井 康貴	東京大学社会科学研究所 特任研究員
にい たのりこ 仁井田 典子	首都大学東京大学院人文科学研究科（社会学） 博士後期課程
ひめの こうすけ 姫野 宏輔	東京大学大学院人文社会系研究科（社会学） 博士課程
ふくだ るい 福田 隆巳	東京大学社会科学研究所 学術支援専門職員

目 次

まえがき

執筆担当者

目次

第 I 部 分析編	1
第 1 章 序論	3
第 1 節 問題の所在と研究の目的	
第 2 節 本報告書の位置づけ	
第 3 節 調査概要	
第 4 節 本報告書の概要	
第 2 章 総論—壮年非正規労働者の仕事と生活の特徴—	25
第 1 節 基本属性	
第 2 節 就業・労働実態	
第 3 節 賃金・収入、仕事満足度	
第 4 節 生活実態	
第 5 節 意識と意欲・行動	
第 6 節 壮年非正規労働者の特徴	
第 3 章 若年・壮年非正規労働者の所在と就業・労働実態	57
第 1 節 非正規労働者の所在	
第 2 節 不本意非正規労働	
第 3 節 非正規労働者の担当職務	
第 4 節 非正規労働者の人事制度	
第 5 節 小括	
第 4 章 非正規労働者の年収	78
第 1 節 正規・非正規労働者の年収分布	
第 2 節 正規労働者と非正規労働者の年収格差	
第 3 節 非正規労働者の年収の決定要因	
第 4 節 まとめ	

第5章 若年・壮年非正規労働者の生活実態	
—経済状況、生活意識に着目して—	147
第1節 はじめに	
第2節 雇用労働者における非正規労働者の状況	
第3節 雇用契約期間に着目した非正規労働者の生活満足度の分析	
第4節 まとめ	
第6章 非正規雇用と健康	179
第1節 はじめに	
第2節 正規・非正規間健康格差	
第3節 健康格差要因の分析	
第4節 過去の健康状態と非正規雇用	
第5節 おわりに	
第7章 若年・壮年非正規労働者の働き方、就業環境は、将来への希望や行動に どのような影響を与えているか	198
第1節 問題意識、先行研究	
第2節 働き方と「希望度」、「仕事面の目標」の関係	
第3節 既婚女性を除く非正規労働者の働き方が希望度や仕事面の目標に与える影響 (多変量解析による検証)	
第4節 働き方と「スキル形成行動」の関係	
第5節 既婚女性を除く非正規労働者の働き方がスキル形成行動に与える影響 (多変量解析による検証)	
第6節 まとめ、インプリケーション	
第8章 壮年非正規労働者の男女比較	237
第1節 はじめに	
第2節 性・配偶関係別 壮年非正規労働者の働き方	
第3節 壮年非正規労働者の経済的生活基盤	
第4節 壮年非正規労働者の非経済的生活基盤	
第5節 失業不安とその対応策	
第6節 まとめ	
第9章 結論	249
第1節 含意	
第2節 残された課題	

1. 調査票
2. A票集計表
3. B票集計表
4. C票集計表